

一、並木家文書について

一、並木家文書について

千葉県文書館古文書調査員 加藤時男

(1) 調査の経緯

東金地域の古文書の所在状況は県内でも最も多い地域である。昭和五十一年に第一巻の刊行された『東金市史』（史料篇）も四巻（各千頁余）に亘り史料篇が刊行され、膨大な古文書史料が採録されている。さらに平成三年に始まった『千葉県歴史』編纂の過程でも東金地域の古文書調査が行われ、多数の古文書史料が採録されている。筆者もその一員として参加したが、特に今回の対象地域である東金市求名では鶴沢家行木家の古文書調査が行われている。なかでも鶴沢家調査では長持一杯の大量の古文書が新たに発見され、そのうちの俳諧関係など文化史料が『千葉県の歴史』（資料編、近世4）にも採録された。その目録も『成東町史料目録(七)町外文書 東金市鶴沢家文書』（平成十八年 成東町）として紹介され、原文書も山武市歴史民俗資料館に所蔵されている。以下に報告する並木家はこの鶴沢家の隣家でありかねてから東金市教育委員会生涯学習課を通して調査依頼をしていたが諸般の事情により実現しなかったものである。

平成二十四年九月、並木家では文書や家具類などを収納してあった納屋を解体することになり、なかの文書類も処分することになり、必要なら東金市に提供するとの連絡を受けた。市生涯学習課では、かねてからの希望でもあり全ての文書類を東金市の小野山田倉庫に一時保管することになった。

予想を超える膨大な古文書群を前に生涯学習課と筆者はその調査方法を検討したが、結局、平成二十四年十一月から逐次、単位ごとに筆者の自宅に搬入して調査することになった。

文書目録の作成方法については、凡例に示したように、並木家納屋にあった現状に応じてそれぞれ各文書を全体としてA～Wの単位を付し、単位ごとに上から番号を付して目録番号として袋詰をした。

(2) 文書の概要と意義

今回新たに発見された並木家文書は、作業の都合により一括とした文書も多く全体としては一万点近くに及ぶ膨大な古文書群であり、その質・量ともに稀な文書群である。求名地区を中心とする東金市は勿論、隣接の山武郡市にとっても地域史研究の貴重な史料であると思われる。

以下にその特徴や留意点を列記する。

- 一．『東金市史』編纂時にも未調査の文書であり、全くの初出文書である。
- 二．明治二十年代に当主並木角太郎による整理がされており、保存状態も良好である。
- 三．並木家は近世においては名主など村役人、近代においては戸長、村用掛、村会議員などを歴任しており、近世、近代の基本的文書が揃っている。
- 四．近世文書は検地帳、年貢皆済目録など中期以降の名主文書と共に、求名地区の特色である御成新道の普請をめぐる蓮沼村に至る村々の関係文書もある。また、村絵図や小金野鹿狩関連文書も多くある。
- 五．近代文書は戸長役場文書や公平村関係文書があるが、明治維新の変革期の行政文書（宮谷県・松尾藩・木更津県・千葉県）も充実している。なかには「日進会」など民権関係の文書も散見される。
- 六．今関俊輔（関素寿）からの書簡もあり、交流があったことがわかる。俊輔（素寿）の私塾製錦堂の教育内容については、資料が殆んどなかったが、並木家文書から「製錦堂塾則」や「百箇条」も発見されている。俊輔は、関寛斎の養父であり寛斎研究にも新たな発見が期待される。
- 七．求名地区では既に「鵜沢家文書」「行木家文書」のそれぞれ数千点の文書が調査されており、併せると求名地区だけで膨大なものとなり、貴重な史料群となろう。